

タイトル:福島大使の徳仁日本天皇陛下 63 歳誕生日祝賀メッセージ～2024 年日パナマ外交樹立 120 周年に向けて～

本文:本日、2月23日、日本の徳仁天皇陛下は、ご即位から4度目の誕生日を迎え、63歳になりました。日本が国祭日として慶祝するこの日はまた、パナマの友好国である日本との関係を改めて認識できる好機でもあります。

日本とパナマのパートナーシップは、パンデミックを克服して力強く前進しました。来年に外交関係120周年をむかえるこの伝統的な関係も、ここ数年のコロナ禍の挑戦を受けなかったわけではありません。しかし昨年はずいぶん経済や人的な交流も復活し、たとえばパナマ運河の利用量やパナマの対外貿易額で日本は引き続き国別のトップ3となりました。

パナマにおいて展開されている様々な日本の協力プロジェクトの中で昨年もっとも皆さんの目をひいたのは、メトロ3号線の建設が本格的に始まったことでしょう。アライハンあたりにいくと巨大な柱や橋桁がニョキニョキと空にそびえています。日本もその建設や拡張に貢献したパナマ運河の真下で、来年初めには史上初のトンネル工事が始められます。近い将来、日本のモノレールがパナマ首都圏の方々の笑顔を乗せて快走する姿を想像して、今からわくわくしています。

そして新たな2023年はまだ始まったばかりです。アジアの暦では、今年がウサギ年で、跳躍の年とも言われます。日本とパナマのパートナーシップもまた、更に高い次元に跳躍できるでしょう。これは国際社会が今直面している喫緊の課題に共に取り組み克服するものです。その一つは民主主義と平和的な国際秩序の堅持。日本は本年、国連安保理の理事国とG7議長国とを務めます。そして運河中立政策を標榜するパナマとの間で、法の支配などの基本的価値観を共有しています。両国は国連や地域機関における外交活動を通じ、武力や紛争による現状変更の企てを防遏すべく協働するでしょう。

そしてもう一つは、経済・社会の持続可能な発展。世界は今、エネルギー・食糧危機、気候変動と環境保全、感染症などの難局に直面しています。これらを英知と連携をもって解決し得るのもまた、我らの補完的なパートナーシップの潜在力と信じます。たとえばパナマの指導力で近く開催される国際会議アワオーシャンにおいて、海洋ゴミ処理などの問題解決に日本のノウハウが活かされるでしょう。またパナマの社会問題を解決するであろう、前述のメトロ3号線プロジェクトなどは恒久的かつ象徴的な成果となるでしょう。

こうしたパートナーシップを一層確かなものとするのは、パンデミック後に回復しつつある、人的・文化的な相互交流の増強です。先頃パナマもランクインした米誌の「世界で訪れたい国ランキング」では、日本も上位の常連です。ぜひ今年の休暇には日本まで足を伸ばしてみてください。

来年1月7日、日本とパナマは外交樹立120周年を迎えます。この契機をとらえ、日本大使として、そしてパナマを愛する一人の日本人として、より一層の二国間関係強化のためより一層力を注いでまいりますので、みなさまの引き続きのご協力を賜りますようお願いいたします。

福島 秀夫
駐パナマ特命全権日本国大使